

**平成 19 年度学術ポータル担当者研修後
リハーサル・プレゼンテーションのレポート**

受講者番号 14-1 河本 善子（自然科学研究機構 核融合科学研究所・評価情報室）
14-2 力石 浩孝（自然科学研究機構 核融合科学研究所・評価情報室）
14-3 松岡 啓介（自然科学研究機構 核融合科学研究所・核融合アーカイブ室）

(1) 発表資料の状況設定

共同利用研究所である核融合科学研究所にとっての機関リポジトリ構築の必要性とその特徴を説明し、研究所の正式事業となるよう働きかける。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

<発表内容抄録>

機関リポジトリとはその機関の知的生産物を電子的に保存しインターネット上で無償提供するシステムであるが、核融合科学研究所にとっては、研究者の利便性のみならず、研究内容を無償公開することで一般市民への説明責任を果たし、その透明性をアピールすることへの意義がさらに大きい。

また、機関リポジトリを構築する際、大学とは異なり、研究分野が限られていることの特徴に加え、評価情報室で開発運用している「論文情報システム」との連携、評価情報室で行っている紀要の編集業務との関係において、研究者の手をほとんど煩わせることなく成果物を収集できるメリットがある。

核融合科学研究所の正式な事業となり、予算措置がなされれば、比較的早期に充実した機関リポジトリの構築が可能である。

<研修当日の講師からの助言>

- ・「グリーン雑誌」など、なるべく専門的な用語は使わないように。
- ・リポジトリ構築に具体的にはどのくらいの予算が必要か。（当日質問）
- ・研究者は、具体的に何をすればよいのか。（当日の質問）

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数etc.）

日時：2007年11月20日（火）9:15-9:30

場所：核融合科学研究所・評価情報室

発表者：河本善子

発表対象：評価情報室員（8名：研究者スタッフ5名、事務職員スタッフ3名）

(4) リハプレゼンへの反響

ー リハプレゼン後の質疑応答 ー

● (Q) Harnad氏のImpact Ratioに関する論文からのグラフ引用は、研究者に対しては、説得力に欠けるので、使わない方が良いのではないか。

同じ雑誌内のOpen AccessとNon-Open Accessの論文の非引用数を比較したとのことだが、厳密には、それらのOpen Accessの論文とNon-Openの論文の質にも言及しなければならないと思う。

また、研究者が引用するときには、孫引きとって、論文の内容を見ずに「引用」から「引用」する場合も非常に多いのが現状だ。

(A) 検討します。

● (Q) 研究所のプレプリントは、インターナルレポートとしての性格を持っており、研究者が学術雑誌に投稿する前、または、雑誌投稿と同時に投稿することが多い。その場合、当然、研究所のプレプリントが先に出版されるが、インターナルレポートをリポジトリや研究所のHPなどに無料でダウンロードできるように掲載して問題はないのか。つまり、雑誌社にとっては、すでに出版したものを出版することになるが、問題はないのか？

(A) 他の外国の研究所など同じようにプレプリントを掲載している所の例などを調べて検討します。しかし、既に紙媒体で「出版」されているものに電子媒体を追加するだけなので問題ないと考えます。

● (Q) 核融合科学研究所の研究者の投稿先のグリーン雑誌のグラフがあるが、その中のグリーンで無い雑誌にはどんなものがあるか。

(A) 主なところで、IAEAの雑誌があげられるが、実際には、グリーン雑誌のようです。現況を調べて報告します。

● (Q) 「リポジトリサーバーの構築」の図を一部修正必要。

(A) その通り、修正します。

● (Q) それぞれの研究分野においては、各機関の図書室がコアなものとして、主要な雑誌はほとんど契約しているはずなので、リポジトリにしなくても研究者は不便ではないのではないか。

(A) 旧国立大学を含めた比較的小規模な大学では、年々予算が削減されており、必要な雑誌もままならない現状があるようです。実際、共同研究者が、核融合科学研究所へ来て、図書室で資料を収集しているのをよく見かけます。

(5) その他 (備考、今後の予定と希望etc.)

●一 現状と今後の予定 一

・ 1ヶ月ほど前に、評価情報室員（研究者）が、D-Spaceをダウンロードし、テスト的に研究所レポートを10件ほど一括入力した。これから細かいカスタマイズに入る。正式な予算が無いため、研究用に購入したパソコンを一時的に借用して、仮のサーバを構築した。（併任の為、それらに専念できないが。）

・ DRFIC2008ポスターセッションに参加予定。

・ 今年度中に、外部より講師を呼んで、講演会を開く予定。また、その講演会の前に、3～4回所内でリポジトリの説明会をするように管理部から要望されている。その際、プレゼンの資料を現在のリポジトリの進行状況に併せて大幅に修正し、説明を研究者対象とする構成に変更して使用する予定。

・ 予算措置がなされるよう引き続き努力していく。

●一 希望・要望 一

現在、大学共同利用機関は、CSI 事業の対象外とされています。しかし、大学共同利用機関における機関リポジトリ構築事業は進展していない事実から判るとおり、CSI 事業が機関リポジトリの推進に果たしている役割は極めて大きいものがあると思います。大学共同利用機関におけるリポジトリ構築を推進するため CSI 事業対象に大学共同利用機関も含まれることを強く要望いたします。